

○海岸の自然を守ろう！

静岡県西部から愛知県の渥美半島までの太平洋岸の海岸（遠州灘海岸）では、サーフィンやウィンドサーフィン、海食崖を利用したパラグライダーなど多く活動が展開されています。またこの地区は日本でも有数のアカウミガメの産卵場ともなっています。アカウミガメの生息は近年、減少傾向にあると言われていたますが、地元の皆様を中心になって、産卵場としての海浜環境を守る取り組みがされています。

6月1日（日）にもNPO法人表浜ネットワーク等の主催により、地元の方をはじめ約200名が参加して1時間の清掃活動を行いました。その後、「すなはま講座」でアカウミガメのあまり知られていない生態系などを学ぶ時間もありました。当事務所からも10名（職員と職員の家族）が参加し、より良い海浜環境へのお手伝いをすることが出来ました。

○大塚海浜緑地完成しました

7月15日、ラグーナ蒲郡の隣りに位置し、愛知県が「手軽で身近で直接的な親水空間」をキャッチフレーズに整備していた『大塚海浜緑地』がオープンします。

この海浜緑地の砂浜は、当事務所が行った中山水道航路浚渫工事で発生した良質な砂を活用してつくられており、潮干狩りや散歩を楽しむことができます。また、多目的広場や芝生広場の主な施設に加え、海浜緑地内には、地域の特性・風土を活かした遊歩道やあづまや風の休憩所なども設置され、人と海のふれあいの場を提供しています。

海と山の自然と観覧車のマッチングが印象的です。

なお、この海浜緑地の駐車場管理や緑地管理等の管理運営については、一体的な利用で相乗効果が期待できるとして「ラグーナ蒲郡」が行うことになりました。みなさんも、砂浜のある大塚海浜緑地で思いっきり海と遊んでみませんか。



清掃活動の様子



大塚海浜緑地



海と山の自然と観覧車が印象的

★今年度からメタボ検診が始まります★ Part①

今年4月から、40歳から74歳までの医療保険加入者（国民健康保険、共済組合等）とその被扶養者には「特定健康診査」（通称：メタボ検診）が義務付けられることになりました。

- ①内臓脂肪型肥満
腹囲 男性85cm以上、女性90cm以上
 - ②高血糖
空腹時血糖 100mg/dl以上 又は
HbA1c 5.2パーセント以上
 - ③脂質異常症
中性脂肪 150mg/dl以上
 - ④高血圧
最高血圧 130mmHg以上 又は
最低血圧 85mmHg以上
- ※①に加え、②～④の内2項目以上該当すれば「特定保健指導」が行われます。

別表：特定健康診査における判断基準

この「特定健康診査」は、糖尿病を始めとする生活習慣病の引き金になるといわれているメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目したものです。この特定健康診査では、「腹囲」の測定が新たに設けられ、また、総コレステロールの測定がLDLコレステロール（悪玉コレステロール）の測定に変わりました。詳細な受診項目は別表のとおりですが、この検診結果により生活習慣病の発症リスクが高いと認められた者には「特定保健指導」が行われます。

今回は「特定保健指導」について説明します。

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.16)



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 形原漁港まつり ○「たはらエコ・ガーデンシティ推進会議」開催
- 「第22回エリカカップ」開催 ○春の530運動
- 春の汐川干潟自然観察会 ○柳生運河探検 ○海岸の自然を守ろう！
- 大塚海浜緑地完成しました ○クールビズ始めます
- 今年度からメタボ検診が始まります Part①

☆CONTENTS☆

☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

先日、1泊2日で、三河湾の黒真珠、佐久島に行ってきました。一色町の船乗り場を出発すること30分、途中、日間賀島や篠島、知多半島等も見ながらの船旅はあっという間に終了。島に到着すると潮の香りとトンビの鳴き声が歓迎してくれました。早速、島内を歩いて散策。ウグイスの鳴き声がどこからでも聞こえるのには驚きでした。人口は300人程度で、島には信号もコンビニもなく、小学校も中学校も1つという非常にのどかな雰囲気でしたが、特に、都市部との違いを感じたのは、“音”でした。機械や自動車等の人工的な音はほとんど耳にすることはなく、聞こえてくるのは鳥のさえずり、打ち寄せる波の音。「二十四の瞳」の舞台がこういう感じなのではないかと思いました。

夜は、地元でとれた魚介類を食べきれないくらいにいただき、豊かな三河湾に感謝。

翌朝、7時集合で定置網体験に出発。民宿の近くから小型ボートで1分くらいの場所に、3箇所設置してあり、それを引き上げるというものでした。海の中から姿が見えてくるとドキドキしてきますが、クロダイ、スズキ、アイゴ、アジ、メバル等、最後には大きなアオリイカまで入っていました。釣れた魚は民宿の前で、バーベキューあるいは刺身にいただきました。朝から豪勢な食事でしたが、働いた後の食事はやはり格別です。

夏場は海水浴客でとても混雑するとのことでしたが、今回はそれほどでもなく、よい時期を選んだようでした。また、違う季節に行ってみたいと思いました。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

○形原漁港まつり

5月3日、蒲郡市形原漁港広場にて、蒲郡漁協の形原・竹島両支局合同主催による水産まつりが開催されました。



どれだけつかめるかなあ？

当日は、初夏を感じさせるほどの陽気の中、漁協の皆さんによるあさりのすまし汁、エビのだんご汁、フリーザーパック等の無料配布がなんと数百名ずつに振る舞われるなど、盛大に行われました。その他、あさりのつかみ取り、三河湾で捕れた新鮮な魚介類の即売会も格安で行われ、来場者は、皆、満足げに帰路に着きました。漁協の皆様のご心意気のおかげで、豊かな三河湾の幸を実感することが出来ました。



大漁旗でお出迎え！！

○「たはらエコ・ガーデンシティー推進会議」開催

田原市役所では、「環境と共生する豊かで持続可能な地域づくり」を基本理念とするたはらエコ・ガーデンシティー構想を、平成17年1月から推進会議を立ち上げて議論を進めています。



推進会議の様子

5月13日に、通算6回目となる推進会議が実施され、平成19年度に取り組まれた、太陽光や風力による自然エネルギーの利用推進、エアレーション（水に酸素を送り込む）による三河湾水質浄化対策の推進、汐川干潟の周辺整備など幅広い実施内容が報告されました。その後、委員から今後の活動内容に対して活発な意見が出され、平成22年度までに、温室効果ガス排出量を平成2年度比より10%下げるため、自然エネルギーの利用推進等の活動を引き続き実施することが確認されました。

○「第22回エリカカップ」開催

5月25日、ラグーナ蒲郡沖にて、第22回エリカカップが開催されました。前日からの雨による影響が懸念されておりましたが、レースが開始されると同時に雨も上がり、ほどよい風が立ち、絶好のレース日和になりました。

エリカカップは、昭和61年に世界25カ国を巡り蒲郡港に帰港したエリカ号を称え、毎年行われているものです。本年のレースには東海地方各地から110艇が出場しました。ヨットのサイズや帆の大きさ等によるハンディキャップの設定により部門が分かれており、国際的なIRC部門、東海地方特有なTRC部門、ハンディキャップなしのノンレーティング部門の計3部門が行われました。普段見慣れないヨットレースということもあり、陸上からの観戦でしたが、大変迫力を感じることができました。その他、海の上からの観戦として、蒲郡市役所が無料のビギナーズセミナーを募集しておりました。来年はぜひ応募し、ヨットの間近でさらに迫力あるレースを観戦したいと思います。



白熱のレース展開

○春の530運動

5月30日、お昼休みを利用して、神野ふ頭地内の事務所周辺や付近の公園の清掃活動を行いました。この取り組みは、豊橋市530運動環境協議会の春の530運動に賛同して行っているものです。

当事務所は市の中心部から離れているのですが、紙くずやペットボトルなど色々なゴミがあり、量も多く、掃除・分別が非常に大変でした。きれいになった緑地を見ると清々しく感じます。皆様方も「自分のゴミは自分で持ち帰る」を合言葉に美しいまちづくりにご協力をお願いします！



自分のゴミはもちかえりましょう！

○クールビズ始めます

地球温暖化防止及び省エネルギーの取り組みとして、6月1日から9月30日までクールビズを実施しています。職員は、ノーネクタイ・ノー上着といった軽装で仕事をしておりますので、ご理解をお願いします。

また、地球温暖化防止のために冷房の温度は28℃に設定しておりますので、ご協力をお願いします。

その他、当事務所において実施しております取り組みとしては、昼休みや利用箇所以外の消灯、長時間席を外す際のパソコン電源の切断等を行っています。当事務所へ来られる際は、クールビズにてお越し下さい。

○春の汐川干潟自然観察会

三河港の豊橋市と田原市の市境に汐川干潟があります。この干潟は広さ280haと本州でも最大級の規模で、三河港内の貴重な空間となっています。6月7日に、愛知県、豊橋市、田原市の共催により、「春の汐川干潟自然観察会」が行われ、地元広報誌などの募集で集まった63名が参加しました。



鳥類の観察

はじめに堤防上からアオサギやダイサギなどの鳥類を観察し、その後干潟に入りました。干潟に降りた時にはビニール袋やペットボトルなどのゴミも多くありましたが、それ以上に多くの巻き貝がビッシリと生息している事にとっても驚きました。また、コメツキガニやアシハラガニなどのカニ類も確認できました。現在も多くの生物が生息している干潟ですが、昭和初期はもっと多くの生物が生息しており、その大きさも倍以上だったということでした。今回は春の自然観察でしたが、秋の開催も予定されており、秋は渡り鳥などが観察できるそうです。私達もこの環境が維持できるように、また多くの生物が生息できる環境に配慮しながら、事業を進めていきます。



アシハラガニ

○柳生運河探検

当事務所では、運河を活用したまちづくりへの協力にも取り組んでいます。今回は三河港の柳生運河の状況確認に行ってきました。

三河港大橋をくぐり小舟でしばらく進むと、牟呂用水最終樋門が左手に見えてきました。牟呂用水は、主に農業用水として新城市一鍬田の牟呂松原頭首工で豊川から取水され、この樋門で柳生運河に合流しています。

東脇の愛知県豊橋赤十字血液センター附近まで遡ると、最近使用された様子は無いようですが、船を繋ぐ係船柱がありました。この辺りの水深は約2m。また、水質があまり良くないようで臭いが気になります。さらに進むことしばらく、大きな音とともに新幹線が目の前を通過しました。水深は1m程度。小舟とはいえ、限界です。この辺りで引き返すことにします。



新幹線と遭遇

柳生運河の歴史を紐解いてみると、昭和8～11年に耕地整理組合が柳生運河として整備を行い、小さな船で海産物などの荷物を運んでいました。昭和25～30年に愛知県が運河の幅を広げ、また、深くすることにより100トン程度の船も利用できるようになり、2m程度の深さのところを、石炭や油、乾繭（乾燥させた蚕の繭、絹糸の原料）などの荷物を運んでいたそうです。現在の三河港の範囲（港湾区域）を再確認すると、小舟柳生運河を遡った場所とほぼ同じで、新幹線橋の下流の道路橋まででした。

柳生運河は、陸からアクセスできる場所が少なく、すぐにまちづくりに活用できる現況ではありませんが、東三河の発展を支えた重要な場所ですので、活用方策を考えていきたいと思っています。



旧係船施設（東脇附近）